



＜世界母乳育児週間 世界母乳の日＞ 日時：2026年8月29日(土)、30日(日)

会場：大阪市中心公会堂大集会室

「第34回母乳育児シンポジウム」もう一度考えよう、母と子と社会のために

主催：一般社団法人日本母乳の会

後援：UNICEF 東京事務所 こども家庭庁 日本産科婦人科学会 日本小児科学会 日本小児科医会

日本新生児成育医学会 日本周産期・新生児医学会 日本助産師会 日本看護協会

大阪産婦人科医会 大阪小児科医会 大阪府看護協会 大阪府助産師会 大阪小児科医会

NMCS（大阪新生児診療相互援助システム） 大阪産婦人科医会 大阪市

実行委員長 白石 淳（小） 国立循環器病研究センター

副実行委員長 森沢 猛（小） 加古川市立中央市民病院
大谷ゆかり(助) 舞鶴こども療育センター

今年も「世界母乳の日」、「世界母乳育児週間」の8月に、日本母乳の会主催の母乳育児シンポジウムを大阪市中心公会堂（国指定重要文化財）（*）にて開催します。

今回のシンポジウムのメインテーマは「もう一度考えよう、母と子と社会のために」です。世界母乳の日が制定された34年前、日本の母乳率は30%台に低迷していました。それが第一次「健やか親子21」のまとめの時期に行われた2015年の乳幼児栄養調査では、国全体の生後1か月の母乳率は51.3%と過半数を超えました。この現象は、母乳育児を支援する多くの人の努力のみならず、社会の意識が母子への優しさに向かっていった時代であったからではないでしょうか。

ところが、近年急激な出生率の低下、新型コロナウイルスのパンデミックによる情報提供機会の減少、多様性を受け入れる社会の中でかえって支援や情報提供を届けにくくなり、SNS等による情報過多に翻弄されるなど、母乳育児支援が希薄化したことが母乳育児率を急激に低下させてしまったように思われます。2024年に公表された令和5年（2023年）の乳幼児身体発育調査では1か月の母乳率は34.5%まで低下していました。

母乳育児によって育まれる母子関係や社会性の経験や記憶は、健全な母と子と社会の成長・発達・発展のために、とても重要な要素であることは、どんな時代でも変わらないはずです。みなさんと、母と子と社会のために、もう一度考えてみたいと思います。

今回のシンポジウムではメインテーマのもと、**多様性の社会のなかで母乳育児を進めるための課題と実践**について2つのシンポジウムと、SNS等で得られる母乳育児に関する情報について話し合おうという特別企画「**母乳育児のこの情報、ホント？**」をご用意しました。特別企画では、いくつかの情報を取り上げ、その情報について各自のモバイル端末から参加いただくインタラクティブ（双方向性）ディスカッションを行います。

また、昨年に引き続き実行委員会でアンケート調査を実施しました。関西地域の自治体における母子支援の施策についてです。これらのデータを加えながらシンポジウムで皆さんと一緒に、明日からでも実践できる母乳育児支援について考えたいと思っています。

初日の特別講演は、近世女性史・ジェンダー史が専門の岡山大学大学院社会文化科学研究科ご所属の沢山美果子先生に「**母乳育児の歴史、文化的な歴史**」についてご講演をお願いしました。興味深い近世の歴史に基づいた現代の子育て・母乳育児へのヒントをたくさんいただけます。

また2日目の特別講演は、東北大学大学院農学研究科ご所属の野地智法先生に「**腸管細菌叢と乳腺の関係**」についてご講演をお願いしました。酪農領域での乳腺の免疫機能研究から発展し、ヒトの乳腺免疫機能と粘膜組織（腸）に発達する微生物叢（フローラ）との関連性について研究されているお立場から、母乳の育児の科学的効用についてのお話を伺えるでしょう。

初日のプログラム終了後、会場目の前にある土佐堀川沿いのレストラン（&ISLAND アンドアイランド 北浜）にて懇親会を予定しています。全国から集まった仲間との交流を楽しんでいただけます。

今年の夏も“酷暑日”の襲来が予想されますが、歴史ある**国指定重要文化財大阪市立公会堂**にて、母乳育児支援について同志のみなさまと酷暑以上に熱いディスカッションを楽しみたいと考えています。ぜひ、多くの皆さまの現地参加をお願い申し上げます。

*会場となる大阪市中央公会堂は、大阪市北区中之島に建つネオルネッサンス様式の歴史的建築物です。1918年の竣工以来、オペラやコンサート、講演会などが開催され、大阪の文化・芸術の発展に貢献してきました。1999年から保存・再生工事が行われ、2002年に完成。創建時の意匠を復元しつつ、耐震補強やバリアフリー化が施されました。美しい外観と内部意匠が評価され、同年12月に公会堂建築物として西日本で初めて国の重要文化財に指定されました。この記念すべき歴史的な建物で開催されるシンポジウムは意義深いものとなるでしょう。



©大阪市中央公会堂

「第34回母乳育児シンポジウム」プログラム

スケジュール

	8月29日(土) 9：45～17：50			8月30日(日)9：50～16：30
9:45～10:10	開会にあたって		9:50～10:30	一般演題
10:10～10:25	報告 1：母子同床・同室		10:30～12:20	シンポジウム 2 母乳育児一現場で何をすべきか
10:25～12:10	一般演題	乳頭ケア実践研修(別室)		1)基調：多様化する時代の母乳育児支援――助産師に求められる役割と実践
12:10～13:10	昼 食			2)産科混合病棟における母乳育児支援の現状・取り組み
13:10～13:25	報告 2：日本の「BFH」年間データ報告			3)お産を継続させるための混合病棟の取り組み
13:25～14:25	特別講演 1： 歴史から考える母乳育児一乳と捨て子の近代			4)病院として取り組む BFH の意義一院長の立場から
14:25～14:40	休 憩			5)BFH を目指している取り組みの実際-母親を取り巻く環境と意識の変化にどう対応するか
14:40～17:20	シンポジウム 1 多様性の社会のなかで母乳育児を広げるために		12:20～13:20	昼 食
	1)産婦人科医がうまく母乳育児に関わるためのステップ		13:20～13:30	報告 3:関西自治体の母乳育児支援への取り組みの現状調査
	2)母と子にやさしくするために～小児科医の立場から		13:30～14:30	特別講演 2：母乳の免疫を支える腸内細菌叢
	3)母乳にこだわらなくなった母親の意識の変化にどう対応するか		14:30～14:40	休 憩
	4)母乳育児の長期的影響一疫学研究からみた母体骨密度との関係一		14:40～16:20	特別企画：スマホで参加！ インタラクティブディスカッション「母乳育児のこの情報、ホント？」SNS 等で得られる母乳育児の情報について皆さんと考えます
	5) BFH 施設でのさまざまな逆風の中続ける母乳育児支援活動		16:20～16:30	閉会挨拶 第 35 回シンポジウム実行委員会挨拶
17:25～18:00	ポスターセッション			
18:30～	懇親会 アンド・アイランド			

「第34回母乳育児シンポジウム」プログラム

メインテーマ： もう一度考えよう、母と子と社会のために

<8月29日(土)> 9:45~18:00

9:45~10:10 開会にあたって

開会挨拶：第34回母乳育児シンポジウム実行委員長 白石 淳

代表理事挨拶：一般社団法人日本母乳の会 永山 善久

挨拶：大阪市（依頼予定）

メッセージ：ユニセフ東京事務所所長 こども家庭庁母子保健課課長(予定)

10:10~10:25

報告1：安心して母子同床・同室ができるために

講師：林 時仲(小) 北海道療育園 母子同床・同室検討委員会

10:25~12:10 一般演題

(10:00~13:00 乳頭ケア実践研修(別途申込者のみ) 別室にて

司会：佐藤 文彦(産)横山病院、有道 順子(助)サングリニック、関西地区ファシリテーター)

<12:10~13:10 昼食・休憩>

13:10~13:25

日本における「赤ちゃんにやさしい病院・BFH」年間データ発表 日本母乳の会データ管理委員会

13:25~14:25

特別講演1

「歴史から考える母乳育児一乳と捨て子の近代」

講師：沢山 美果子 岡山大学 文明動態学研究所

司会：白石 淳(小) 国立循環器病研究センター

14:25~14:40 休憩

14:40~17:20 シンポジウム1

「多様性の社会のなかで母乳育児を広げるために」

司会：森下美樹(助) 石川県立中央病院

谷口 武(産) 谷口病院

1) 産婦人科医がうまく母乳育児に関われるためのステップ

山崎 峰夫(産) パルモア病院

2) 母と子にやさしくなるために～小児科医の立場から

安原 肇(小) 奈良県総合医療センター

3) 母乳にこだわらなくなった母親の意識の変化にどう対応するか

谷口 紗恵子(助) 横浜市立大学附属 市民総合医療センター

4) 母乳育児の長期的影響ー疫学研究からみた母体骨密度との関係ー

古板 規子(産) 京都民医連中央病院

5) 「BFH施設」でのさまざまな逆風の中続ける母乳育児支援活動

渡辺 裕美(助) 岐阜県総合医療センター

17:25~18:00 ポスターセッション

18:30~ 懇親会 アンド・アイランド(淀屋橋・会場から歩いて5分)

<8月30日(日)> 9:50~16:30

9:50~ 10:30 一般演題

10:30~12:20 シンポジウム2

「母乳育児—現場で何をすべきか」

司会：西田美香（助） 国立病院機構長崎医療センター

黒須英雄（小） 浜田病院

1) 基調：「多様化する時代の母乳育児支援——助産師に求められる役割と実践」

高田 昌代（助） 日本助産師会会長

2) 産科混合病棟における母乳育児支援の現状・取り組み

村尾 由花（助） 姫路赤十字病院

3) お産を継続させるための混合病棟の取り組み

藤田 由理（看） 諏訪中央病院

4) 病院として取り組む BFH の意義—院長の立場から

左右田 裕生（産） 済生会 兵庫県病院

5) BFH を目指している取り組みの実際—母親を取り巻く環境と意識の変化にどう対応するか

小笠原 啓（小） 公立岩瀬病院

<12:20~13:20 昼食・休憩>

13:20~13:30

関西自治体母乳育児支援状況の取り組みの現状調査

13:30~14:30

特別講演2

「母乳の免疫を支える腸内細菌叢」

講師：野地 智法 東北大学大学院農学研究科

司会：永山 善久（小） 長岡療育園

14:30~14:40 休憩

14:40~16:20

特別企画：スマホで参加！

インタラクティブディスカッション「母乳育児のこの情報、ホント？」

SNS 等で得られる母乳育児に関する情報についてみなさんと考えましょう。
いくつかの情報を取り上げ、その情報についてどのように思われるか等、アンケート形式でスクリーン上に提示します。各自のモバイル端末で投票をしていただき、スクリーンおよび各端末にリアルタイムで表示された結果をもとに討論します。そしてその情報が事実に基づいているか、噂なのか、検証します。（実行委員による解説あり）

16:20

閉会の挨拶 第34回母乳育児実行委員会副実行委員長 森沢 猛

次回の挨拶 第35回母乳育児実行委員会実行委員会

16:30 閉会

日本専門医機構：小児科領域講習小児科専門医1単位、産婦人科領域講習産婦人科専門医1単位、
日本産科婦人科学会5点。日本産婦人科医会研修参加証(シール)。
日本助産評価機構のアドバンス助産師更新「選択研修」、日本助産師会産後ケア実務助産師研修に該当